

# 地域連携モデル事業 佐賀県の取り組みについて

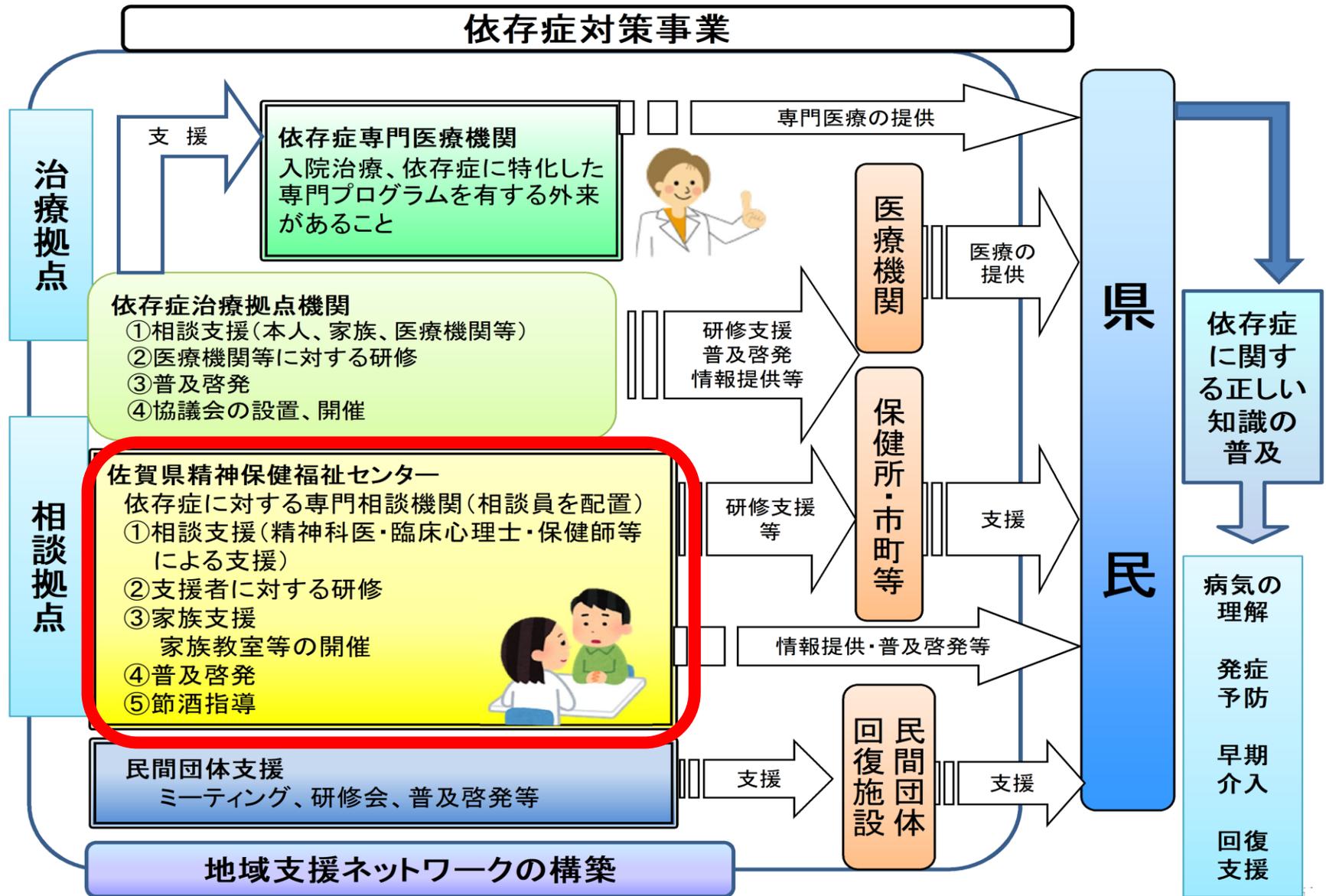
「どこにいても、  
回復のどの段階にいても、  
切れ目のない支援が受けられる」  
佐賀県を目指して

佐賀県精神保健福祉センター  
相談・指導担当

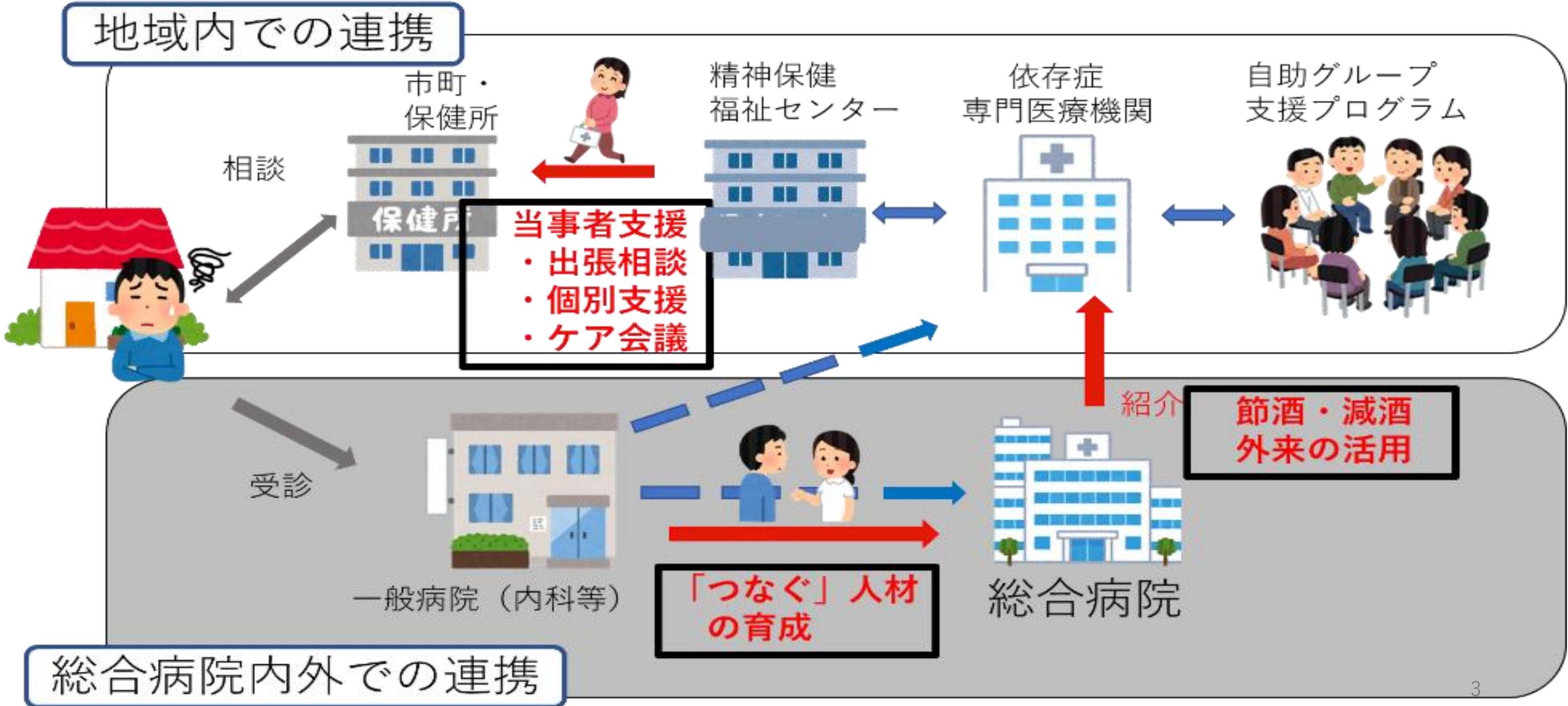




# 佐賀県の依存症対策



# 地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業



# 地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業の取り組み

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
研修会	<p>対象：杵藤地区 内科コメディカル</p> <p>内容：節酒外来を担当する医師による講演</p>	<p>対象：唐津地区 内科コメディカル</p> <p>内容：節酒外来を担当する医師による講演</p>	<p>対象：県内特定保健指導に従事するコメディカル</p> <p>内容：節酒外来を担当する医師による講演・GW</p>	<p>対象：県内特定保健指導に従事するコメディカルや肝炎Co等対象を拡大</p> <p>内容：節酒外来を担当する医師等による講義及びロールプレイ・GW →より実践的な内容で継続して実施</p>
		<p>対象：上記+肝炎Co</p> <p>内容：節酒外来を担当する医師等による講義・ロールプレイ</p>	<p>対象：上記+肝炎Co</p> <p>内容：節酒外来を担当する医師等による講義・ロールプレイ</p>	
聞き取り調査			<p>対象：前年度の研修受講者及び当事者</p> <p>内容：連携・支援上の困難に関する聞き取り</p>	
連携会議				<b>実務者会議</b>
個別支援	随時実施	随時実施	随時実施	随時実施



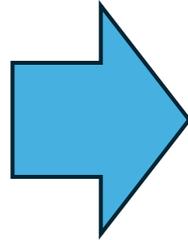
# これまでの取り組み

R2年～

相談支援機能の強化を  
目的とする研修会から  
モデル事業を開始

(3年やってみての課題)

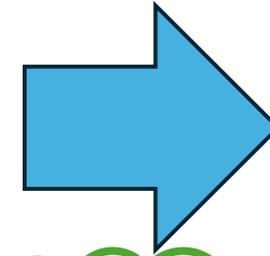
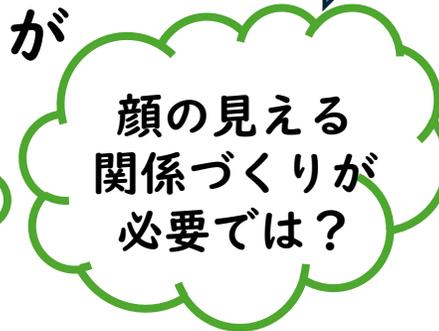
- ・意識の高い人のみが  
毎回参加。  
受講時は意欲が高まるが、  
継続しない？  
効果がなかなか見えない。
- ・アルコールの相談は  
増えない…。  
アルコールで困っている人  
はどこに??



R4年

関係機関への  
聞き取り調査

支援者・当事者双方の  
「つながりにくさ」  
「アルコール相談への  
ハードルの高さ」が  
見えてきた  
→**連携の課題**



R5年～

**連携会議を開始**

- ・支援者が孤立しない。
- 他の支援者に相談できる、つなぐことができる。
- ・相談者が確実に  
関係機関につながる。

# 令和5年度 アルコール健康障害対策連携会議

日時：令和5年5月31日（水）14：00 ～ 16:00

場所：ゆめぷらっと小城 多目的ホール

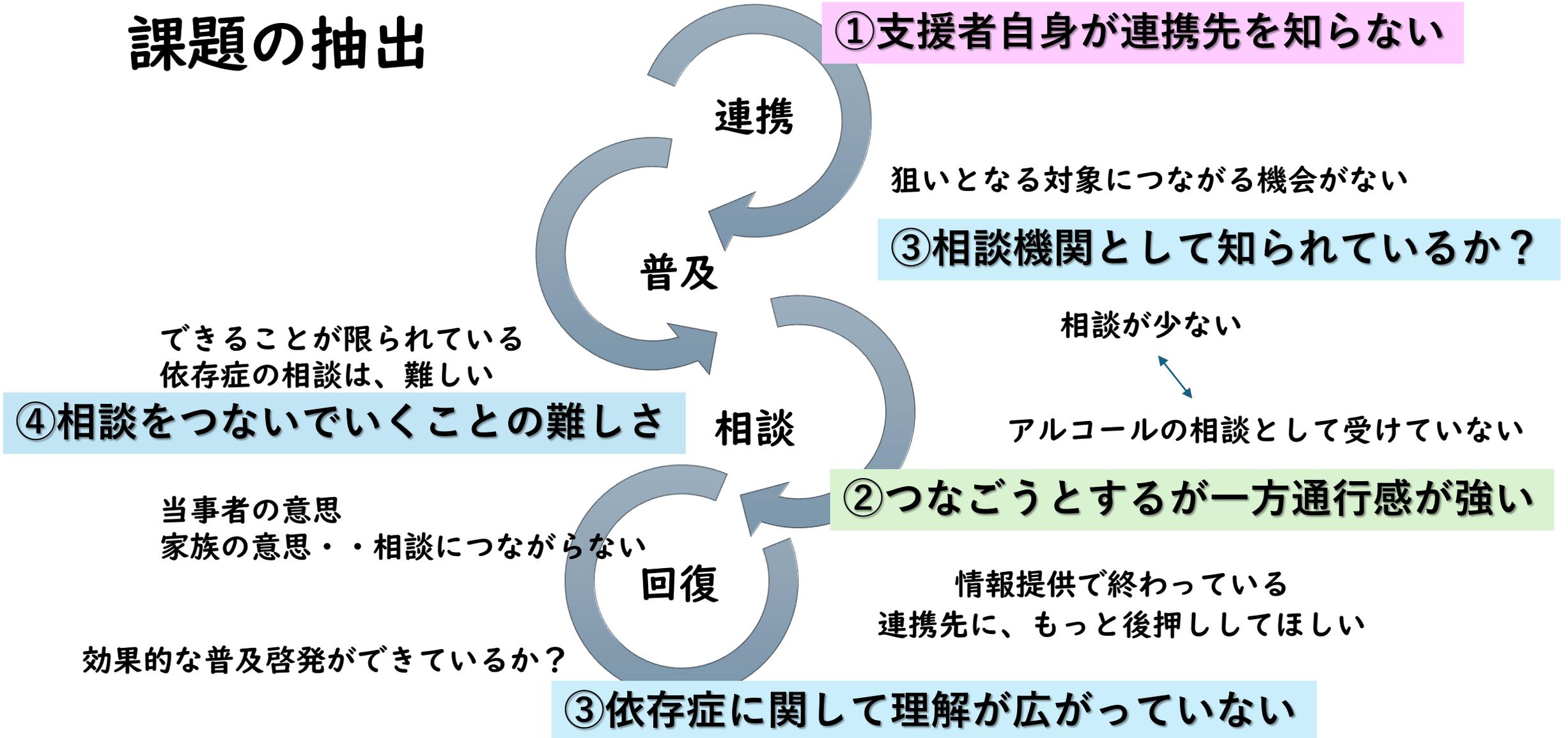
主催：佐賀県精神保健福祉センター

- 1 あいさつ 精神保健福祉センター所長 宮下 聡
- 2 主旨説明及びモデル事業説明  
精神保健福祉センター職員
- 3 「佐賀県アルコール健康障害対策推進計画（第2期）」  
について 佐賀県障害福祉課
- 4 各機関からの発表（事前課題資料に基づく）
- 5 情報提供「アルコール健康障害の相談と治療」  
講師 地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館  
精神科医長 角南隆史 先生
- 6 質疑・意見交換
- 7 閉会

参加機関	
依存症拠点医療機関	肥前精神医療センター
依存症治療機関	園田病院
	虹と海のホスピタル
警察本部	交通企画課
県庁	障害福祉課
自助グループ	佐賀県断酒連合会
	佐賀県断酒連合会家族会
依存症回復施設	佐賀DARC
節酒外来	佐賀県医療センター 好生館
健診機関	産業医学協会
肝疾患センター	佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター
内科医療機関	江口病院
保健福祉事務所	杵藤保健福祉事務所
市町	武雄市健康課
	小城市健康増進課

# 令和5年度 アルコール健康障害対策連携会議

## 課題の抽出



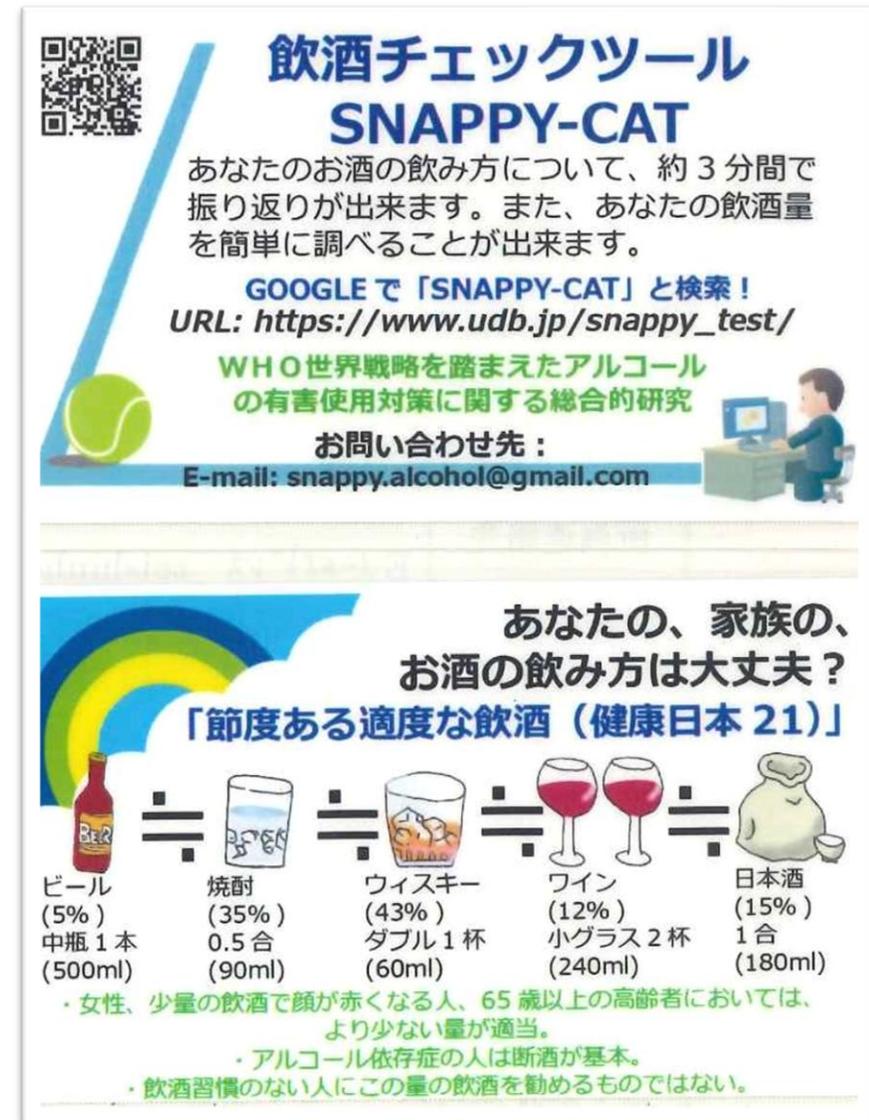
# 令和5年度 アルコール健康障害対策連携会議

## 情報提供

### SNAPPYシリーズ（県立病院：角南医師提供）

- ・ 飲酒に関する問題意識を可視化するツールとして活用できる。
- ・ どの段階においても飲酒量の話から相談へつなぐことができる。
- ・ 相談者の動機づけにあわせて相談を勧める必要があり、その手段として活用できる。

URL <https://snappy.udb.jp>



**飲酒チェックツール  
SNAPPY-CAT**

あなたのお酒の飲み方について、約3分間で振り返りが出来ます。また、あなたの飲酒量を簡単に調べることが出来ます。

**GOOGLEで「SNAPPY-CAT」と検索！**  
URL: [https://www.udb.jp/snappy\\_test/](https://www.udb.jp/snappy_test/)

WHO世界戦略を踏まえたアルコールの有害使用対策に関する総合的研究

お問い合わせ先：  
E-mail: [snappy.alcohol@gmail.com](mailto:snappy.alcohol@gmail.com)

あなたの、家族の、  
お酒の飲み方は大丈夫？  
「節度ある適度な飲酒（健康日本21）」

				
ビール (5%) 中瓶1本 (500ml)	焼酎 (35%) 0.5合 (90ml)	ウィスキー (43%) ダブル1杯 (60ml)	ワイン (12%) 小グラス2杯 (240ml)	日本酒 (15%) 1合 (180ml)

・ 女性、少量の飲酒で顔が赤くなる人、65歳以上の高齢者においては、より少ない量が適当。  
・ アルコール依存症の人は断酒が基本。  
・ 飲酒習慣のない人にこの量の飲酒を勧めるものではない。

# 令和7年度の取り組み①

## 個別支援・・少しずつ連携がスムーズになった

たとえば・・・

- ・多量飲酒で問題を起こし、何度も警察に保護されている。

受診は断固拒否、酒ではなく、イライラがなければいいんだ!!

⇒警察からの依頼で本人と面談時に、佐賀DARCの方に同席してもらう

当事者同士での会話で心を開く

その後、当センターのSMARPPに参加される

# 令和7年度の取り組み②

## 人材育成研修

- ◇依存症支援のための基礎セミナーの開催  
薬物、アルコール、ギャンブルのシリーズで企画
- ◇問題解決しない事例検討会の開催

☆県内5か所（保健福祉事務所）でのフリーミーティングを実施  
⇒キャッチできる（＝理解し、つなぐ、自分にできることをする）場所を増やしたい！

# 令和7年度の取り組み③

## リーフレットの作成

アルコール健康障害連携会議での意見

「初任者でも慌てず相談を受けられるよう、指導内容、相談先がわかりやすいリーフレットが必要だと思う。」

⇒今年度中にリーフレット完成予定

「リーフレットを作っても、活用されないと意味がない…」

⇒活用方法についての研修を令和8年度に実施検討中

# 令和5年度 ギャンブル依存症対策連携会議

日時：令和5年10月11日（水）14：00 ～ 16:00

場所：ゆめぷらっと小城 研修室

主催：佐賀県精神保健福祉センター

## 1 あいさつ

精神保健福祉センター所長 宮下 聡

## 2 各機関からの自己紹介

## 3 「佐賀県ギャンブル等依存症対策推進計画」について

佐賀県障害福祉課職員

## 4 本日の流れと開催目的・事前課題について

佐賀県精神保健福祉センター職員

## 5 シンポジウム

「佐賀県における関係機関の取り組み」

コーディネーター・登壇者

## 6 質疑・意見交換

## 7 閉会

参加機関	
依存症拠点医療機関	肥前精神医療センター
当事者	全国ギャンブル依存症問題を考える会 当事者支援部
家族の会	全国ギャンブル依存症家族の会佐賀
回復施設	一般社団法人656（コピープラン）
法的支援	佐賀県弁護士会
運営者	唐津市ボートレース企業局
警察関係	警察本部生活安全企画課
教育	佐賀大学学生支援室
相談機関	消費生活センター
県庁	障害福祉課
依存症相談拠点機関	精神保健福祉センター
保健福祉事務所	佐賀中部保健福祉事務所
市町	佐賀市（社協 福祉まると相談）

# 令和7年度の取り組み④

## 普及啓発



ギャンブル等依存症対策連携会議での意見から

◇ 「若者に届く啓発を！」（回復施設より）

- ・ YouTube動画を作成

当事者および家族のメッセージを届ける

ギャンブル依存症 佐賀県

検索

◇ 「ボートレース場(2F)と同じ建物内に子どもの遊び場(1F)が…  
将来が心配です！」（家族の会より）

- ・ 保護者向けに、普及啓発を実施。

家族の会と協同。

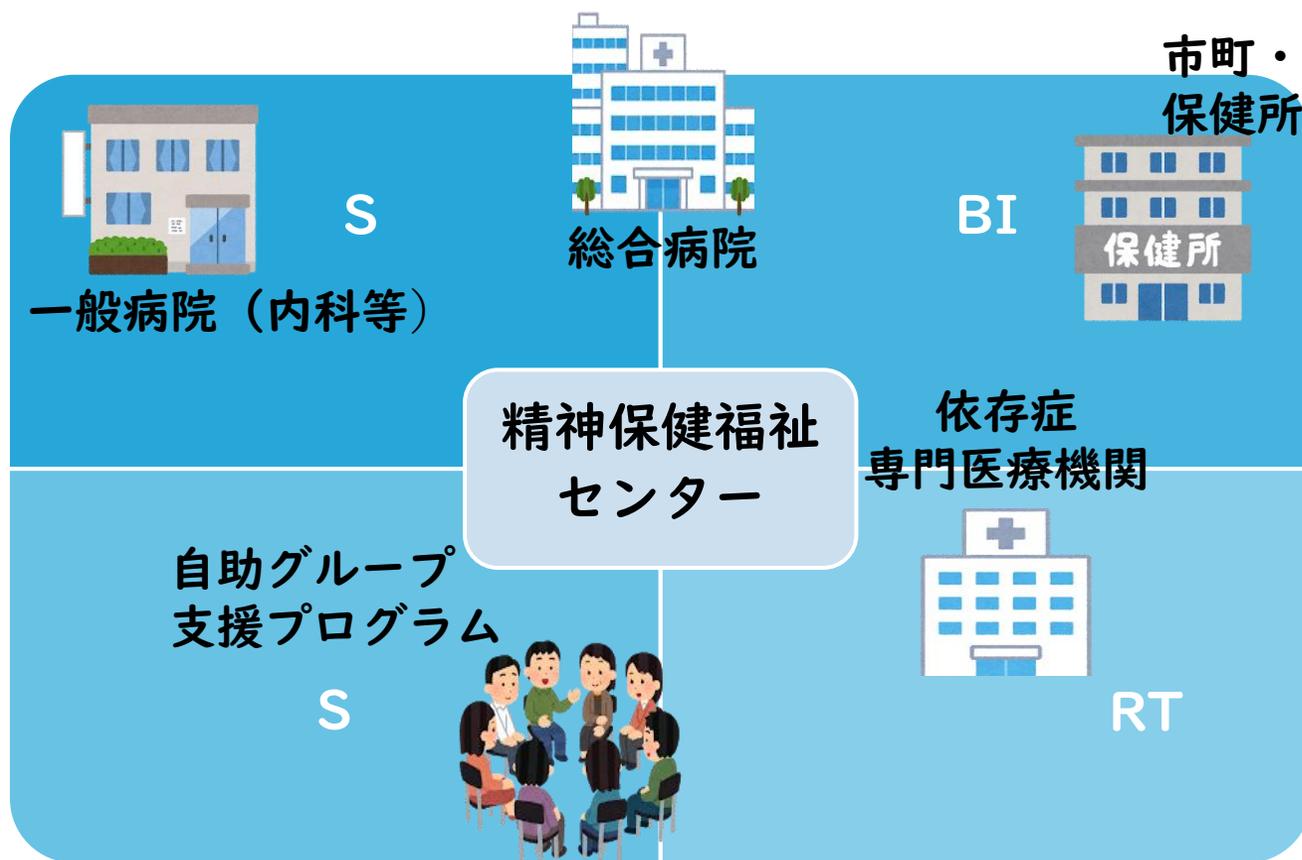
同日、ボートレース場の職員向けに講座を実施。

# まとめ～精神保健福祉センターの役割

- アディクションの反対は、コネクション
  - センターが、いろいろな機関や資源とつながることで、センターにつながった方が他の機関や仲間ともつながることができるように
- 一人一人の回復の過程があることを知っている
  - 方法を限定せず、当事者にも家族にもよりそい、今を大切に
- 地域の入り口であり、居場所であり、ハブである
  - 社会との接点、行政をはじめとした社会とつながる場としての役割を果たす
- 「どこにいても回復のどの過程にいても必要な支援につながることができる」  
佐賀県を目指して
  - 依存症について「知っている」、つながりあえる佐賀県を目指し、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの両方を行っていく

# 地域連携モデル事業

## 佐賀県の取り組みについて



「どこにいても、  
回復のどの段階においても、  
切れ目のない支援が受けられる」  
佐賀県を目指して

